

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月10日
【四半期会計期間】	第2期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	あすか製薬ホールディングス株式会社
【英訳名】	ASKA Pharmaceutical Holdings Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山口 隆
【本店の所在の場所】	東京都港区芝浦二丁目5番1号
【電話番号】	(03) 5484 - 8845 (代表)
【事務連絡者氏名】	グループ経理部長 市川 学
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝浦二丁目5番1号
【電話番号】	(03) 5484 - 8845 (代表)
【事務連絡者氏名】	グループ経理部長 市川 学
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第1期 第2四半期 連結累計期間	第2期 第2四半期 連結累計期間	第1期
会計期間		自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高	(百万円)	28,477	30,172	56,607
経常利益	(百万円)	2,743	2,987	4,880
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	(百万円)	2,796	2,346	4,290
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	2,559	3,251	4,982
純資産額	(百万円)	41,790	52,002	48,892
総資産額	(百万円)	78,295	86,227	83,297
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失()	(円)	98.52	83.18	151.22
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	53.4	60.3	58.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,417	1,666	2,842
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	427	199	6,743
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,386	1,346	2,996
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(百万円)	10,117	17,224	17,103

回次		第1期 第2四半期 連結会計期間	第2期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自2021年7月1日 至2021年9月30日	自2022年7月1日 至2022年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	(円)	137.17	36.25

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第1期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第1期及び第2期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

2021年度からスタートした当社中期経営計画では、これまで築いてきた基盤を発展させ、当社グループが目指す「スペシャルティファーマを基盤としたトータルヘルスケアカンパニー」の実現にむけて、本中計期間の最終年度にあたる2025年度目標である売上高700億円、営業利益率8%、自己資本当期純利益率（ROE）8%の達成に取り組んでおります。

（1）経営成績

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和により社会・経済活動は緩やかに正常化へと向かう一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、急激な円安の進行やエネルギー、原材料価格の上昇に伴うコスト増加要因が経済に与える影響により、先行きは依然として不透明な情勢のまま推移しておりますが、このような状況下においても、当社グループの事業は前年度に引き続き、堅調に推移しております。

当第2四半期連結累計期間における当社経営成績は以下のとおりであります。

	前第2四半期 連結累計期間 (百万円)	当第2四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	28,477	30,172	1,694	6.0%
営業利益	2,657	2,879	221	8.3%
経常利益	2,743	2,987	244	8.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益（は損失）	2,796	2,346	5,143	-

セグメント業績は次のとおりであります。

医薬品事業

内科、産婦人科、泌尿器科の3分野に注力している医薬品事業は薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。製品別にみると、産婦人科領域において子宮筋腫・子宮内膜症治療剤「レルミナ」が4,524百万円（前年同期比22.2%増）と前年に引き続き大きく増加したほか、月経困難症治療剤「フリウエル」が1,765百万円（同5.9%増）と順調に伸長しました。また本年6月から販売を開始した月経困難症治療剤「ドロエチ」は1,279百万円となり売上を牽引しました。さらに内科領域の主力品である甲状腺ホルモン製剤「チラーヂン」が3,921百万円（同3.5%増）、難吸収性リファマイシン系抗菌薬「リフキシマ」も2,757百万円（同11.9%増）と着実に伸長しました。泌尿器科領域ではLH-RH誘導体マイクロカプセル型徐放性製剤「リュープロレリン」が2,619百万円（同3.9%増）となりました。

以上の結果、売上高は26,851百万円（同4.8%増）、セグメント利益は3,141百万円（同12.3%増）となりました。

アニマルヘルス事業

動物用医薬品、飼料添加物等の製品を販売しているアニマルヘルス事業においては、飼料添加物の売上が堅調であったこと等から、売上高は3,234百万円（前年同期比15.9%増）、セグメント利益は231百万円（同1.0%増）となりました。

その他事業

臨床検査、医療機器、サプリメント等の各事業を展開しているその他事業については、前年度に発売した毛髪ホルモン量測定キットの売上寄与もありましたが、売上高は86百万円（前年同期比29.7%増）、セグメント損失は20百万円（前年同期は26百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,929百万円増加し、86,227百万円となりました。これは主に、有価証券および無形固定資産が減少しましたが、現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産および原材料及び貯蔵品などが増加したためであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ180百万円減少し、34,224百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金および流動負債のその他が増加しましたが、電子記録債務が減少したためであります。なお、短期借入金および長期借入金の合計は返済により減少しております。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,109百万円増加し、52,002百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加および株価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末から1.6ポイント上昇し60.3%となっております。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ121百万円増加し、17,224百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、1,666百万円(前年同期は1,417百万円の増加)となりました。これは主に、売上債権の増加および棚卸資産の増加はありましたが、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の計上によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、199百万円(前年同期は427百万円の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は、1,346百万円(前年同期は1,386百万円の減少)となりました。これは主に、長期借入金の返済によるものであります。

(4) 優先的に対処すべき事業上および財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費総額は、1,768百万円であります。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	30,563,199	30,563,199	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	30,563,199	30,563,199	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	-	30,563,199	-	1,197	-	844

(5)【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	3,122	11.03
武田薬品工業株式会社	大阪府中央区道修町4丁目1-1	2,204	7.79
ゼリア新薬工業株式会社	東京都中央区日本橋小舟町10番11号	1,877	6.63
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,100	3.88
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	1,028	3.63
山口隆	横浜市港北区	891	3.15
株式会社ヤマグチ	東京都港区三田3丁目1番10号 三田マルハチビル6F	579	2.04
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社(常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都渋谷区恵比寿1丁目28番1号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	530	1.87
日本生命保険相互会社(常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	522	1.84
あすか製薬ホールディングス従業員持株会	東京都港区芝浦2丁目5-1	505	1.78
計	-	12,363	43.69

(注) 1. 当社は、自己株式を2,269,161株保有していますが、上記大株主からは除外しております。

2. 自己株式(2,269千株)には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株ESOP信託口・76361口)が所有する当社株式31千株を加算しておりません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,269,100	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,273,300	282,733	同上
単元未満株式	普通株式 20,799	-	-
発行済株式総数	30,563,199	-	-
総株主の議決権	-	282,733	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株1,000株(議決権の数10個)が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、従業員持株E S O P信託口(以下「信託口」という。)が所有する当社株式31,700株(議決権の数317個)が含まれております。なお、会計処理上は、当社と信託口は一体であると認識し、信託口が所有する当社株式を自己株式として計上しております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
あすか製薬ホールディングス株式会社	東京都港区芝浦 2丁目5-1	2,269,100	-	2,269,100	7.42
計	-	2,269,100	-	2,269,100	7.42

(注) 自己株式には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株E S O P信託口・76361口)が所有する当社株式31,700株は加算していません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,103	17,224
受取手形、売掛金及び契約資産	14,482	16,357
有価証券	5,000	-
商品及び製品	10,016	9,865
仕掛品	457	512
原材料及び貯蔵品	4,587	5,779
その他	2,911	3,112
貸倒引当金	0	-
流動資産合計	49,557	52,852
固定資産		
有形固定資産	10,936	10,798
無形固定資産	6,183	5,192
投資その他の資産		
投資有価証券	12,223	13,274
その他	4,414	4,126
貸倒引当金	17	17
投資その他の資産合計	16,620	17,383
固定資産合計	33,739	33,374
資産合計	83,297	86,227
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,118	4,299
電子記録債務	3,723	2,514
短期借入金	1,723	2,848
賞与引当金	1,160	1,103
その他の引当金	28	-
その他	6,257	7,228
流動負債合計	16,011	17,995
固定負債		
長期借入金	12,323	10,049
退職給付に係る負債	5,730	5,849
その他	338	330
固定負債合計	18,393	16,229
負債合計	34,404	34,224
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	1,867	1,847
利益剰余金	45,833	47,954
自己株式	3,479	3,375
株主資本合計	45,419	47,624
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,231	3,739
為替換算調整勘定	164	547
退職給付に係る調整累計額	77	91
その他の包括利益累計額合計	3,473	4,378
純資産合計	48,892	52,002
負債純資産合計	83,297	86,227

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	28,477	30,172
売上原価	15,051	15,870
売上総利益	13,426	14,301
販売費及び一般管理費	10,768	11,422
営業利益	2,657	2,879
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	137	185
持分法による投資利益	51	-
その他	65	51
営業外収益合計	254	236
営業外費用		
支払利息	29	25
休止固定資産費用	108	27
その他	30	75
営業外費用合計	168	128
経常利益	2,743	2,987
特別利益		
投資有価証券売却益	-	32
特別利益合計	-	32
特別損失		
減損損失	5,921	-
その他	961	-
特別損失合計	6,882	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	4,139	3,019
法人税、住民税及び事業税	117	693
法人税等調整額	1,460	19
法人税等合計	1,342	673
四半期純利益又は四半期純損失()	2,796	2,346
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	2,796	2,346

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	2,796	2,346
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	162	519
退職給付に係る調整額	15	13
持分法適用会社に対する持分相当額	59	371
その他の包括利益合計	237	905
四半期包括利益	2,559	3,251
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,559	3,251

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	4,139	3,019
減価償却費	1,346	1,527
減損損失	5,921	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	221	132
受取利息及び受取配当金	137	185
支払利息	29	25
持分法による投資損益(は益)	51	21
投資有価証券売却損益(は益)	-	32
売上債権の増減額(は増加)	1,697	1,876
棚卸資産の増減額(は増加)	730	1,096
仕入債務の増減額(は減少)	254	27
その他	234	397
小計	2,203	1,907
利息及び配当金の受取額	137	184
利息の支払額	30	26
法人税等の支払額	894	398
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,417	1,666
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	262	292
無形固定資産の取得による支出	133	21
投資有価証券の売却による収入	-	56
関係会社株式の取得による支出	53	-
その他	22	58
投資活動によるキャッシュ・フロー	427	199
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	30	-
長期借入金の返済による支出	1,149	1,149
自己株式の増減額(は増加)	7	29
配当金の支払額	199	225
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,386	1,346
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	396	121
現金及び現金同等物の期首残高	10,514	17,103
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,117	17,224

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。) を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会(以下「持株会」)に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

(1) 取引の概要

当社は、持株会に加入する従業員のうち一定の要件を充たす者を受益者として信託を設定します。信託は持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を一括取得し、当社株式を毎月一定日に持株会に売却します。信託終了時に、株価の上昇により信託利益がある場合には、従業員へ拋出割合に応じて金銭が分配され、株価の下落により信託損失となる場合には、当社が銀行に対して一括弁済することになっております。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度65百万円、58千株、当第2四半期連結会計期間35百万円、31千株であります。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前連結会計年度97百万円、当第2四半期連結会計期間73百万円

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

当社グループでは、固定資産の減損会計や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りについて、当第2四半期連結財務諸表作成時において入手可能な情報に基づき実施しております。新型コロナウイルス感染症拡大による当社グループへの影響は現時点では限定的であり、当第2四半期連結会計期間の見積りに大きな影響を与えるものではないと判断しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入金に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
Ha Tay Pharmaceutical Joint Stock Company	- 百万円 (- 百万VND)	124百万円 (20,599百万VND)

(注) 外貨建保証債務は期末日現在の為替レートで円換算しております。

2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引金融機関とコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
コミットメントライン契約の総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行残高	300	300
差引額	2,700	2,700

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
給料手当・賞与	1,666百万円	1,676百万円
賞与引当金繰入額	760	781
退職給付費用	241	226
運送保管料	2,899	3,051
研究開発費	1,941	1,768

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	10,117百万円	17,224百万円
現金及び現金同等物	10,117	17,224

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 配当金支払額

当社は、2021年4月1日に単独株式移転によりあすか製薬株式会社の完全親会社として設立されました。

配当金の支払額は下記にあすか製薬株式会社の定時株主総会において決議された金額であります。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月24日 あすか製薬株式会社 定時株主総会	普通株式	199	7	2021年3月31日	2021年6月25日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託に対する配当金0百万円を含めております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月1日 取締役会	普通株式	199	7	2021年9月30日	2021年11月30日	その他資本剰余金

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託に対する配当金0百万円を含めております。

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	225	8	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託に対する配当金0百万円を含めております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月7日 取締役会	普通株式	226	8	2022年9月30日	2022年11月30日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託に対する配当金0百万円を含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	医薬品事業	アニマル ヘルス事業				
売上高						
外部顧客への売上高	25,619	2,791	66	28,477	-	28,477
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	26	26	26	-
計	25,619	2,791	93	28,504	26	28,477
セグメント利益又は 損失()	2,797	229	26	3,000	342	2,657

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額 342百万円は、各事業セグメントに配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「医薬品事業」セグメントにおいて、無形固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、前第2四半期連結会計期間においては5,921百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	医薬品事業	アニマル ヘルス事業				
売上高						
外部顧客への売上高	26,851	3,234	86	30,172	-	30,172
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	28	28	28	-
計	26,851	3,234	114	30,200	28	30,172
セグメント利益又は 損失()	3,141	231	20	3,352	473	2,879

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額 473百万円は、各事業セグメントに配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含めていた「アニマルヘルス事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	医薬品事業	アニマルヘルス 事業		
売上高				
一時点で移転される財	25,611	2,791	66	28,469
一定の期間にわたり移転される財	8	-	-	8
顧客との契約から生じる収益	25,619	2,791	66	28,477
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上高	25,619	2,791	66	28,477

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計
	医薬品事業	アニマルヘルス 事業		
売上高				
一時点で移転される財	26,843	3,234	86	30,164
一定の期間にわたり移転される財	8	-	-	8
顧客との契約から生じる収益	26,851	3,234	86	30,172
その他の収益	-	-	-	-
外部顧客への売上高	26,851	3,234	86	30,172

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

2 (セグメント情報等)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「アニマルヘルス事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	98円52銭	83円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (百万円)	2,796	2,346
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	2,796	2,346
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,389	28,210

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、前第2四半期連結累計期間においては、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第2四半期連結累計期間においては、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 従業員持株E S O P信託口が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間103千株、当第2四半期連結累計期間44千株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2022年11月7日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....226百万円

(ロ) 1株当たりの金額..... 8円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2022年11月30日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月9日

あすか製薬ホールディングス株式会社

取締役会 御中

清陽監査法人

東京都港区

指定社員 業務執行社員	公認会計士	野中	信男
指定社員 業務執行社員	公認会計士	中市	俊也
指定社員 業務執行社員	公認会計士	槇田	憲一郎

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているあすか製薬ホールディングス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、あすか製薬ホールディングス株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と

認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。